

40 日本を愛したピアニスト：アルフレッド・コルトー

20 世紀前半のフランスを代表するピアニストであるアルフレッド・コルトー（1877-1962）は、フランス人の父とスイス人の母の間にスイスで生まれました。コルトーは演奏者として活躍すると同時に教育者でもありました。自らの理想とする音楽教育を実現するために、1919 年に、パリにエコールノルマル音楽院を設立しました。



Alfred CORTOT
アルフレッド・コルトー

コルトーは、1952 年に来日し、全国各地で公演を行いました。山口県でコンサートを行った際に、現在の下関市にある川棚温泉のホテルに宿泊しました。ホテルから眺めた美しい厚島（男島、女島、竜宮島、石島の四島からなる島々の総称で無人島）とそれを囲む海の美しい風景に魅了されたコルトーは、「私はこれまで世界の美しい海や山を見てきたが、こんなに美しい夢のような島はみたことがない。なぜか外国にいる感じがしない。日本はまるで故郷のようだ。」と同行していた弟子に話したと伝えられています。コルトーは当時の川棚村の村長に「天国のようなあの島でこっそり死にたい。ぜひ買いとりたい。」とも話したと言われています。村長は大変驚いたものの、コルトーの言葉と熱意に心を打たれて、「あの島に永久にお住みになるなら、無償で差し上げましょう」と快諾し、島の名前を「孤留島（コルトー）」と命名することも提案しました。「私の思いはひとりあの島に残るだろう」との言葉を残して、コルトーは帰国しました。帰国後のコルトーは、自分の名前の島が日本にあることを周囲に嬉しそうに話し、日本への再訪を夢見ていたと伝えられています。しかし、コルトーは病に倒れ、願いを果たせないまま 1962 年にこの世を去りました。

コルトーの抱いた夢は叶いませんでしたが、コルトーの思いが完全に消えたわけではありませんでした。厚島（孤留島）が縁となって、2007 年に下関市とエコールノルマル音楽院がパートナーシップを締結しました。2010 年には、コルトーが滞在したホテルの跡地には、隈研吾設計の「下関市川棚温泉交流センター 川棚の杜」が完成しました。この施設には、コルトーホールと名付けられた音楽ホールが設けられ、毎年「コルトー音楽祭」が開催されています。

コルトーによって日本とフランスとの間の交流が生まれ、コルトーが残した言葉のとおり、コルトーの思いは今も日本で生き続けています。

掲載日：2023 年 12 月 1 日